

熊本大学放射線障害防止委員会活動

-教育訓練企画WG-

上村実也

応用分析技術系

1. はじめに

本学では、熊本大学放射線障害防止委員会において放射線取扱者に係る教育訓練を企画している。

一部の利用者からの教育訓練の内容に係る改善の要望を受けて、利用者に対する教育効果の向上並びに内容の合理化を提案し、改善したので報告する

2. 概要

従来、登録の更新に係る教育訓練は、RIコース、X線コース及び診療系コースの3種類を企画・開催してきた。また、新規登録に係る教育訓練は、講習A、講習X及び講習Hの3種類を企画・開催してきた。

講習Aの受講対象者は、放射性同位元素及び放射線発生装置の利用者、講習Xは、X線装置利用者である。

今回、放射線発生装置の利用者から、従来の講習Aの内容は、そのほとんどが放射性同位元素の利用に関する内容となっており、さらに、実習については、放射性同位元素利用に関する事項のみのため、内容の改善が求められていた。

これを受けて、熊本大学放射線障害防止委員会教育訓練企画WGリーダーとして次の提案を行い、WGメンバー及び委員会委員と協議することで改善した。

(1) 登録の更新に係る教育訓練

これまでの3種類のコースに、放射線発生装置利用者向けのコースを追加で企画した。この際、放射線発生装置の利用者は、X線装置を併用する利用者が多いため、合理化を図る観点から、平成25年度実施分については、この内容をX線コースのものと同一「放射光利用」に関するものとした。

(2) 新規登録に係る教育訓練

平成26年度第1回の教育訓練において、暫定的に内容を次のように改めた。

- ① 実習を止めて、放射線発生装置利用に関する内容を充実した。
- ② 教育訓練の時間数が長時間（6時間）に及ぶため、分割して受講できるようにした。

3. 考察

平成26年度第1回の教育訓練において、受講者からのアンケートを収集・分析することで、平成26年度第2回以降の新規登録の内容を継続して検討する。